

日本学術会議
基礎医学委員会 ICLAS 分科会（第 26 期・第 3 回）、
基礎医学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会・食料科学委員会・臨床医学
委員会・薬学委員会合同動物実験分科会（第 26 期・第 3 回）
合同会議 議事録

1. 日時：令和 8 年 5 月 18 日（月）16:00～18:00
2. 場所：オンライン会議

出席者

- ・ ICLAS 分科会
入來篤史(委員長)、末松誠(副委員長)、山崎由美子(幹事)、村山美穂、金井正美、鍋倉淳一、林元展人
- ・ 動物実験分科会
加藤総夫(委員長)、金井正美(副委員長、兼 ICLAS 分科会)、村山美穂(兼 ICLAS 分科会)、坂上雅道、杉山文博、三浦竜一
- ・ 事務担当 實川審議専門職(日本学術会議事務局第二部担当)

欠席者

城石俊彦(動物実験分科会・幹事)、中村雅也(動物実験分科会)、伊佐正(動物実験分科会)

3. 議題

議事に先立ち、今期初めての試みとして ICLAS 分科会と動物実験分科会の合同分科会を開催する趣旨が述べられ、両分科会委員長の挨拶ならびに委員紹介が行われた。

(1) ICLAS 分科会及び動物実験分科会の両方に関連する議題

・「動物実験の 2006 年体制」発足 20 周年を節目とした公開シンポジウム開催について
加藤委員長から、シンポジウム開催提案の経緯と目的について説明があった。「動物実験の 2006 年体制」が発足して 20 年が経過し、わが国の動物実験を支える仕組みが整った現状を共有するとともに、この間の技術・環境・社会の変化とそれに応じた取り組みに基づいて、動物福祉の理念を踏まえた上での動物実験の重要性を再確認し、今後の 20 年に向けた課題を共有する場としたいとの提案があった。

入來委員長から、2026 年中にシンポジウム開催を目指す理由として、国内外の状況についての補足説明があった。

(2) ICLAS 分科会に関連する議題

- ・ ICLAS 創立 70 周年記念事業について

入來委員長から、ICLAS において国際的に動物実験のガイドラインを再調整するプロジェクトが企画されていることと、その計画やタイムスケジュールについて共有され

た。

- ・その他

入来委員長から、今後入来委員長、林元委員の ICLAS 理事任期満了を見据えて、今後の ICLAS 分科会のメンバー選出を考える必要があるとの意見が出された。

(3) 動物実験分科会に関連する議題

- ・ ICLAS 分科会との連携について

加藤委員長から、わが国の動物実験体制の国際化を進めるため、ICLAS 分科会との情報共有と協議を進める方針について報告があった。

- ・ 今期の活動計画について

機関ごとの管理体制、動物実験施設の外部検証、その公開と透明化をさらに進めるため、動物実験に関する情報の一元化に向けた DX を進めることなどについて説明があった。

- ・ その他

機関管理方式により、20 年前と比して一定の成果と社会的合意を得てきた日本の動物実験管理体制について、その維持と発展に加え、国際的理解を広めるための取り組みについて説明があった。その発展にはアカデミアだけでなく民間企業も含めて意見を反映させる必要があることが議論された。